一九郎
夢之仮橋

へ 13
3805

門へ13
號3805
合

善惡夢道浮橋序

釋傳曰夢とは判らるる四箇の法あり。一は曰学び乃ち[illegible]八。二は曰古きを系真神が同神湯あり。九魂ものよ侵せ[illegible]。三は曰地の火風の方塡べ。四は曰善惡の分相あり。神仲のうちの宿て。源通るとあるとは。夜を則魂靜こ。現神とれよりさんとあるとは。吉凶を[illegible]義をとりてもるといへり。西山記に曰。惡き夢を見んまとゝ[illegible]。平常生き年のものゝ[illegible]海亀牛犬などの肉を食べ[illegible]。邪淫あり[illegible]。偽り背きさ[illegible]。[illegible]。[illegible]。

思義をなる。是その子欲をるとりてうれべ。愛をんて善紙なり。
愛をんて悪をうをと。情をんべ有べくべ。此有よ今一箇の新向をあげて。愛の
淳樸と歎をるをへ。愛あるようて迷惑を導。勧善懲悪のおりなをを
児童のためみ。編集をををるり

文化申初春

東都
十返舎一九題

本綱貘似熊而頭小脚早黑白駁文毛浅有光澤牛尾虎足多力而能啖食銅鐵及竹骨蛇鼈為坐臥得寢貘皮避温癘瀉気邪気唐世

積悪之怨鬼

多画鐵作屏風此食悪夢之俗説有之乎

貘ばく

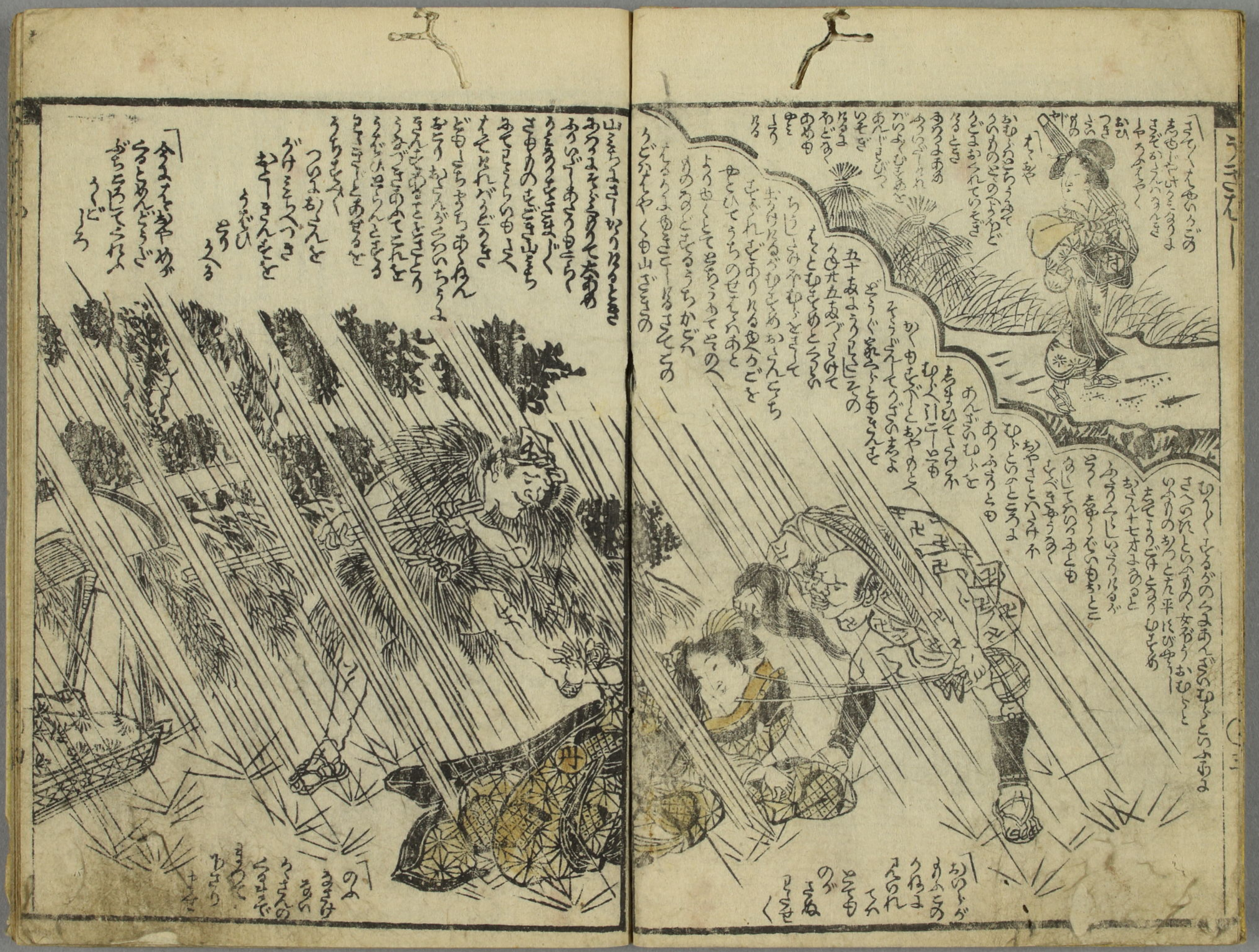
賞幹録曰往時皇帝畫十二符而以拂悪夢所謂起其早天向日出而軸誠心浄手嚙口而后唱此咒文轉凶夢成吉夢云〻

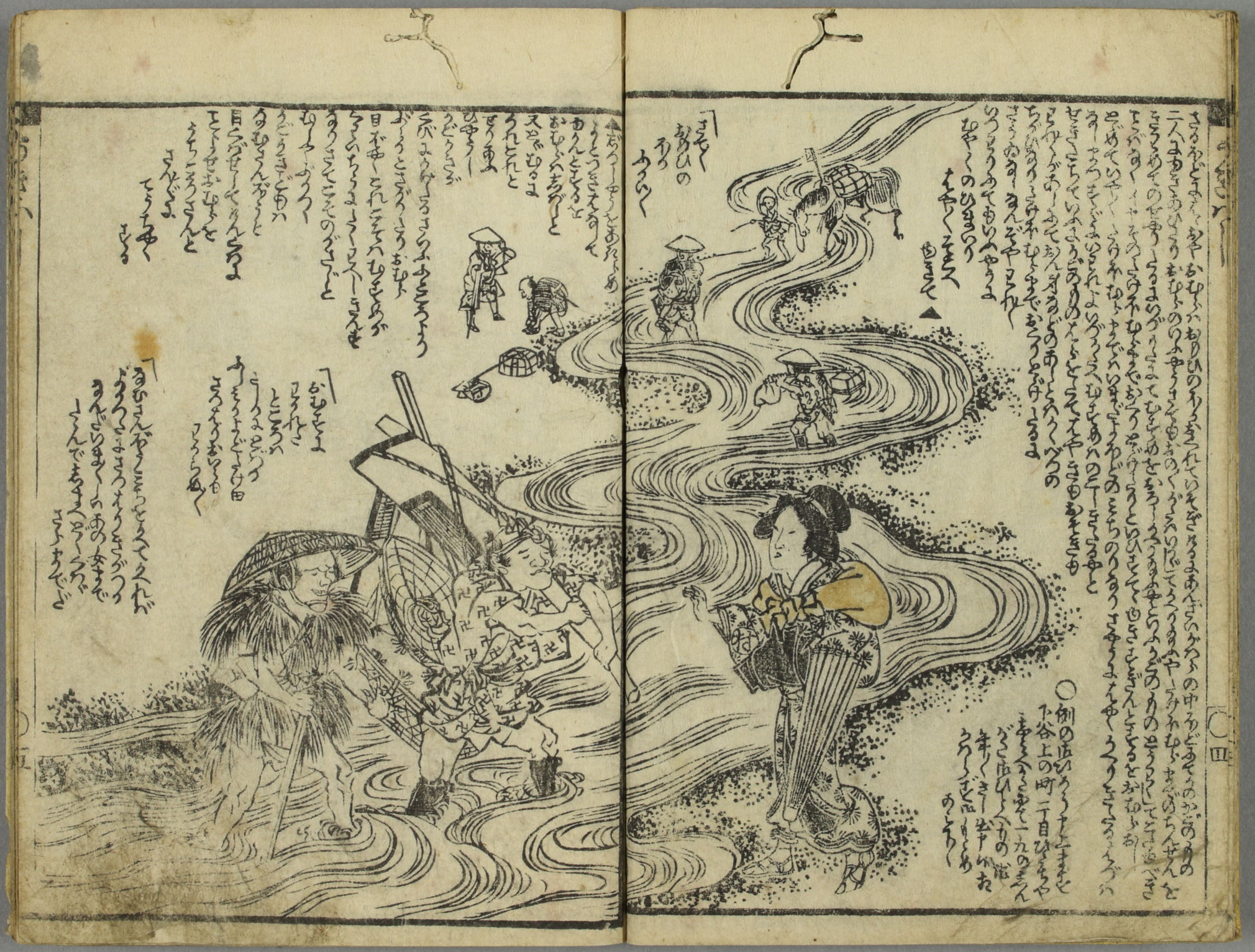
赫赫陽明 日出東方
斷絶悪夢 碎除不祥

天正のころ、ゆ州のちしようきれー伝権八といふものありせいりうそんらくあつくさくぎあうらうあんくさんどのみをひんきうれーてあさあふきんせんのしゅあぶざることをうれいあひてさるあくあくちんをこらしゆとぞてさのきんのさいくくあぶみとそのことのとよこそうをいさああんじつれてやとろこるがおりはぞふぐのあめをくらくくんをくよるこぐ

魂

浮橋佐権次




「さて
ありがの
ちろの
ふるの
ちろの
ちろの
ちろ

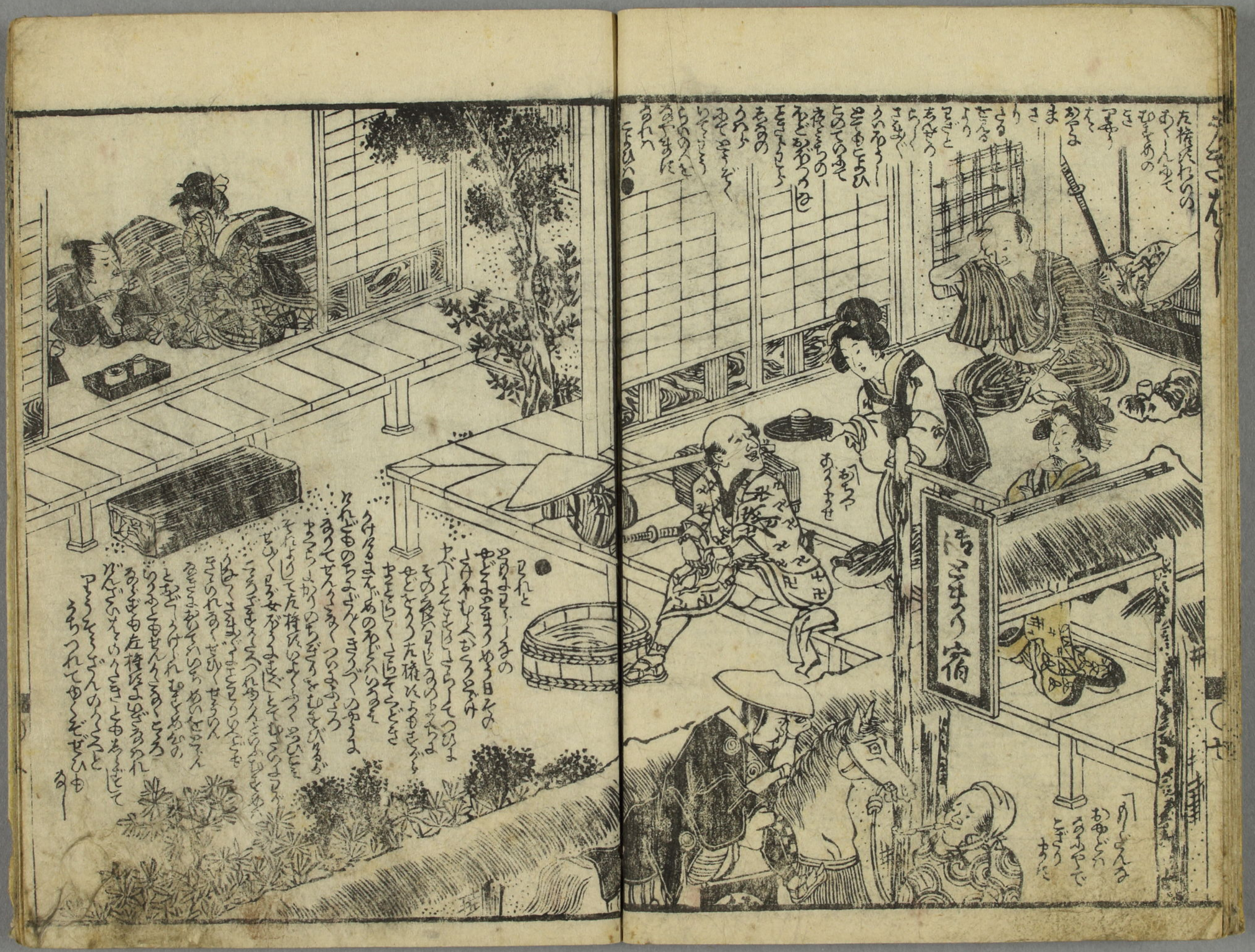
中之巻

安逸不詢
道不知天
理正路者
將隨悪趣

左権次はもしぶのんぎせるのやにを
まつれいぎをのさうこうまちみかうろるよ
左権はひとつのあくねんをろおもひよぐ
きるあるのりやーうらなるぞくよ
れんぶーてをのこけをあーくぐこと
くるまもふらつこうぐそんぜきを
のちまのひさいのふるりひんとろるを
ぬひさんぐておげんをるを
左権ひおどーのあるぐをを
ひきやきしひくところこ
ふーろのせんとろ
まろもこーろ

のやもうて
ぎひぐろさきき
ろうとこうるれろと
ぬじろうろうちゅーく
ごもにゅおくこと
こあきき
くるぬさどど
ゆやーさゆ
あれをさうとの
きんをゆーこうえー
めろのれぐつのよ
こゆーをさーころ
らのいろうのきん
をきうぐひろろる
このこきめーこれる太の松
おどろきあいてあぐこうろる

左


ちこせうの宿

うきさん
左
丹
吉

太
左

つゞき いろやうとものとぐとそやうくよ
ごまーかくーるがそもこのものの
まさきさるぐーいけ
あのそのあけんあるぐとと
とぐよそのあとをつけて
なとろのまちまんづれよ
いで日くれかくーるを
さいとらいかろうの
かのをうとて
まそんとさろう
うみーくるよ
太のまろのくろて
つゞきつき
あぐをひ
りるが
左侍氏は
あのこうを
しこのもの
ぬきえるすてきうけくー
ついよみこうをきうとろーくる
そのとき太の松がおこうあり
あみやうのだんれいの
ろてこうちんをうつて
左侍氏よとろうあひるが
こうちんこちちちりく
あぐそのけみうの
うちこうあやこき女のこぐと
あぐうれ出さごんどう

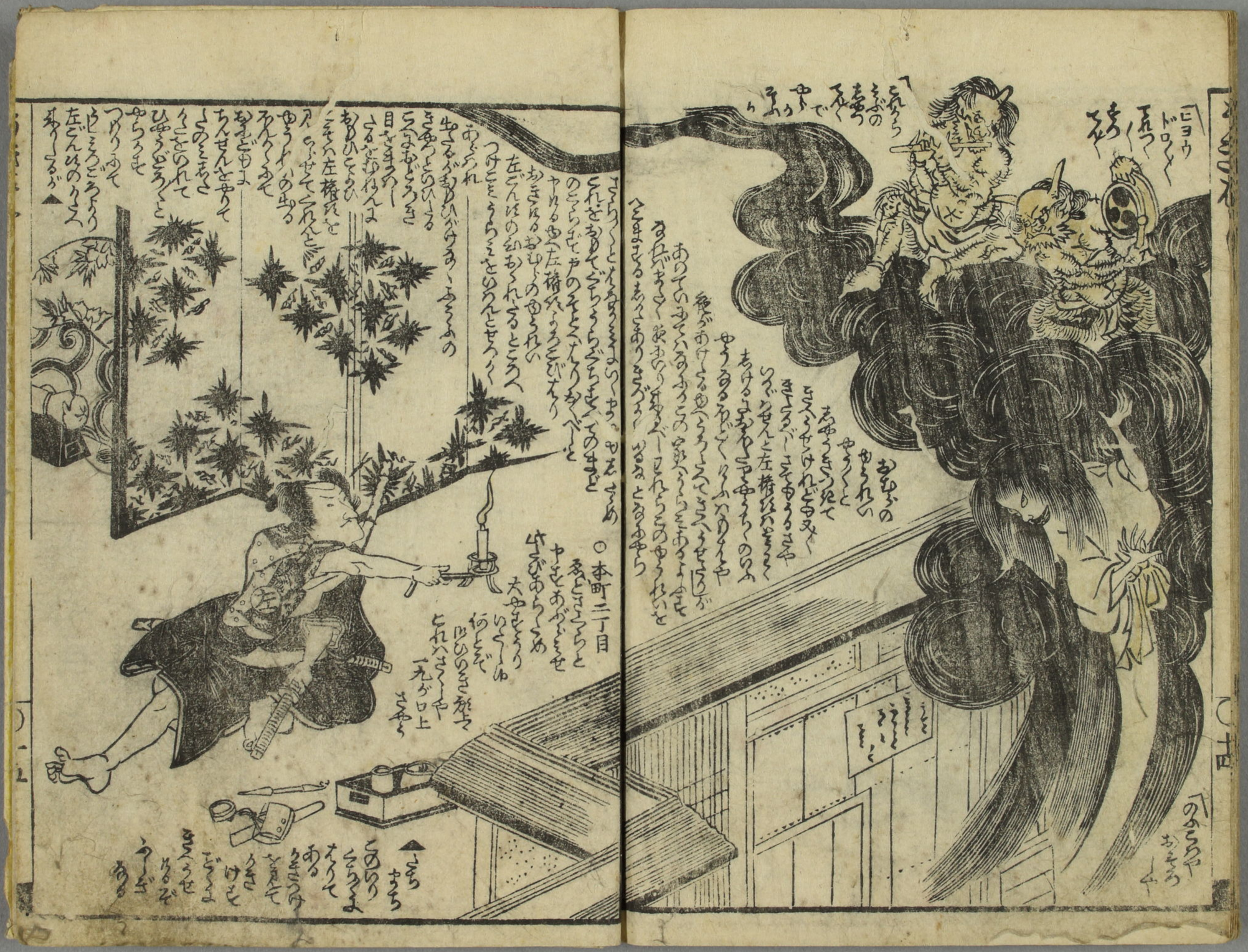
●ものどろうとろうと
ーこさきさんとこもこと
ころうけこふひく
ものくーこうぐやへ
こちうこうる

左侍氏は
太のまろうと
きうこうこうこうこ
このそうよ
ちうこのの
のければ
こうこうろ
やこーとて
ぐあてあんど
のこうーこ
そのちいるの
ひとうやよりる
こもちうくこ氏
りわいこよこき
そのこもこき
そのあるこもこちてかんこのきこち七才
あそありよりるこぐんーつぐとありよこの
ぜんれのこーあそこひあこうこうろ女ぐこうあこんが
ぐんーあやこうこうよりよみーも七年ぐんここー
七こうこいここよあこうこうそのこきこんーこうこうの行き
あくよこきこうこうここれこもこんやこんと女ぐこうこありこそこれば
こうぐここあこもこうこあこそこそこのぐーこうここ
こうぐつこをあやこうぐーここて女ぐこうあんーこうこうの
めのあこうれんこきあこうこいこうこ氏のこうこうあここうこ
ぐーこのーここのーこここここきここあこつけここのこ
こうきんぐよこのかのこをあこうねここもやこここうぐこ
そのここうここぐこうここりるかこぐこーあこーこここここ
あここふーここそのあとこをあこうここうけあこここここうこ
女ぐこうここんこつぐここここうこのこここもこりこあこりここ
ひここよつくれんこここよここよこひこんここのこちこんこのこんこのこ氏こここここ

次へつゞく

左

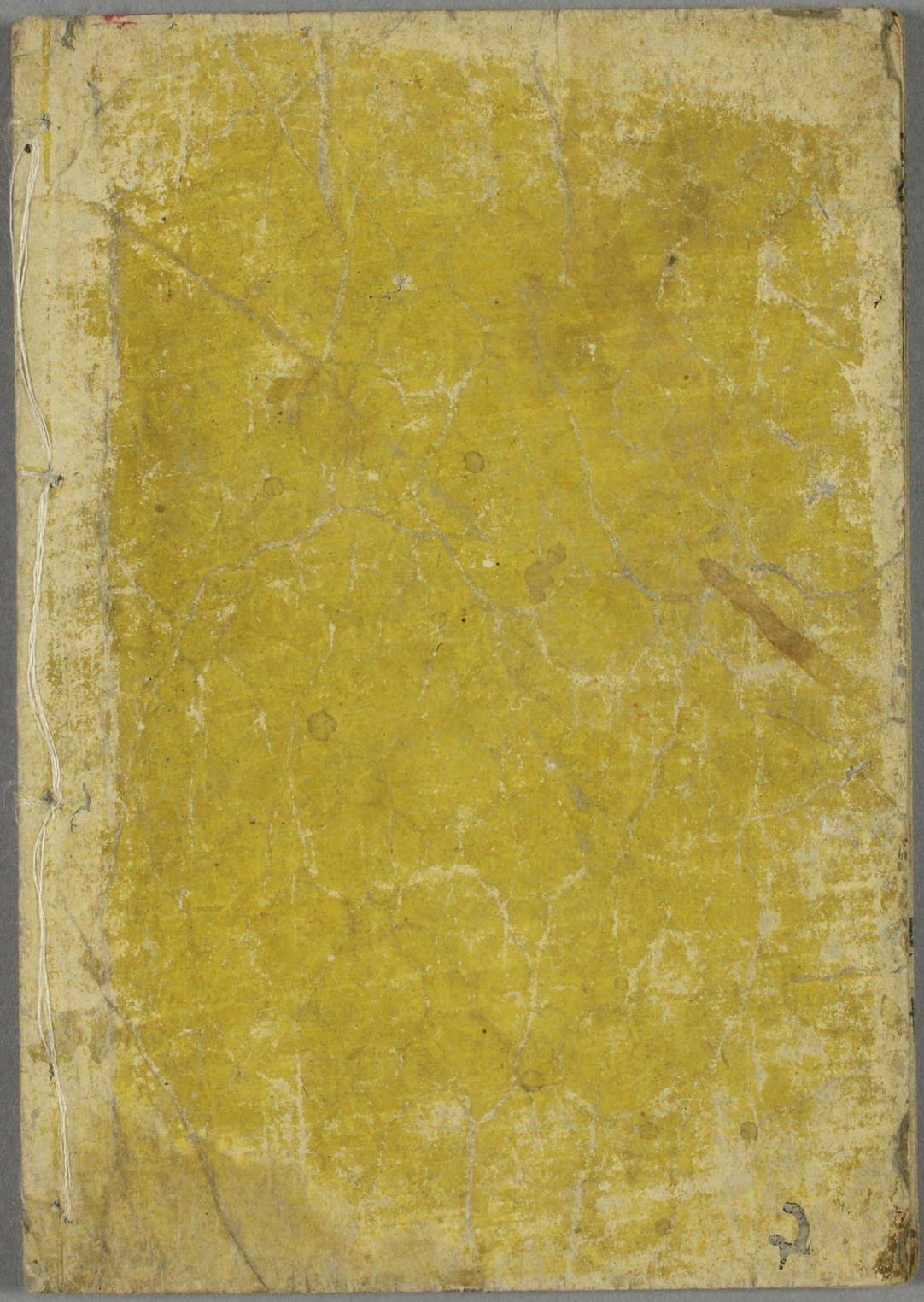
左


ヒョウ
ドロ〳〵
左〳〵
左〳〵
左

慶應義塾大学図書館
自一丁

十返舍一九作
歌川國丸画

左ゑんひんそのあくしてやちろりけうのあるこれのきさこぶ目よりのうんせんとおりひーとろろひゃうひゃうどろくーのおとぞろひとろちへんのぐぞふげうせるゆうさとよあんどーて夜のあけるとおちろりけさるあさもやあるちのあさるいるふどのいふさうさるゆやゆーぎるるきりりうりとそあくるあさるどちーよたりうるとうとそうんれべさそうぐとふぞぶとあて

「おげくひとろさろけのやくあるどの今百足ぞ今ゑとーけさるべくゆゆうれいどのくあやうちくとろさろるるそこそけ百足けるるそれてあるうれいいうるうせるるぞふーぞるるり

左、権兵衛ふーぎのゆめをみて
えきさとさろるれうんふくふーて
そのうろよあろるぬきんせんよみを
のうあやーひくとおりひれのゆめの
うちろよんとうちきんをうぐひそう
さみぞーのめーさやちいうきゆーゆめ
うれがとそうのあうるれさもあーん
おるさよろそのひくひよいのちを
ちしるひまうよんちをさるるべー
おそるべーしくとそれうりてあくれんを
ひるぐべーぜんーんとろりてのちゆん
ちゆあつせよくーそうおうのあうつきーて
アろーんちゆうセーりくーとさうくうのぐいきーて
よのーそうるぞめぞーうーくー